

「聴くことから始まる」

「神の声に、人々の声に、世界の声に耳を傾けよう～となりびととなるために～」

2023年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけに応えるために東北教区では今年は「聴くこと」を大事にしようをテーマに「耳を傾けよう」キャンペーンを展開中です。私自身もキャンペーンに応答すべく日々どうだろうか振り返りながら少し思いを書かせて頂きます。

長女が通学している高校のプログラムの一つに姉妹校との交流があります。交流の一環として8月22日（金）～30日（土）までの間中国（上海）からの高校生を我が家で受け入れて一緒に過ごす機会が与えられました。8月24日（日）には盛岡聖公会の主日礼拝にも出席されました。

短い時間ではありましたが、一緒に宮古まで車で出かけて遊覧船やさっぱ船に乗って青の洞窟を探検する機会を得て私自身もとても楽しい良い時間でした。日本の文化、にも触れ、お寿司、ラーメン、お好み焼き、盛岡名物「わんこそば」体験もしたようです。何よりも同世代の仲間たちと国籍を超えた交流の時を過ごすことが出来たことは大きな糧になっていくのだらうと思いました。コミュニケーションは言葉や身振り手振りです。私は携帯の翻訳アプリを利用しながら会話をしましたが引っ込み事案でなかなか積極的に話しかけられませんでした。長女も長男も最初は人見知りしていましたが次第に打ち解けていったようです。「私は会話はまだそんなに出来ないけど何を伝えようとしているかは理解できるかな」と長女が言ったのですが、心に

残りました。ヒアリング、言葉を覚える一歩はヒアリング、聴くことから始まることを実感した瞬間でもありました。

以前、管区の青年委員会で韓国の青年たちと一緒に過ごす機会が何度か与えられた時も日本語以外の言語、ハングル語、英語が飛び交います。言葉が通じない事によるストレスを感じながらもとにかく意味が分からないなりに彼らの言葉に耳を傾けていると不思議となんとか意味が分かってくるのです。当時青年委員会の委員長だった現在は大阪教区主教に就任された小林聡主教が「言葉のシャワーを浴びる」事を大切にされていました。小林主教も決して流暢に英語やハングル語を話す方ではありませんがとても積極的にコミュニケーションを取られる方でした。

「言葉のシャワー」とは素敵な表現だなと思いませんか。考えてみますとまだ言葉を話せない赤ちゃんがお父さんやお母さんの言葉を聴きながら言葉を覚えていきます。幼稚園や子ども園でも園児たちが少しずつ言葉を覚えていく様子を日々感じています。「わたし」の世界は聴くことによって広がり、聴き続けることによって関係性が豊かになっていくことは真実だなと実感しています。主イエス様も出会った人の言葉や心の思いにじっくりと耳を傾けてくださいました。私自身もいつも身近にいてくれる家族、そして日々出会う人の声を聴けるように心を整えたいと思います。

（司祭 越山哲也）